歯科口腔外科・矯正歯科

●スタッフ（2020年10月1日現在）

診療科長　近津　大地
医局長　長谷川　温
病棟医長　菅野　勇樹
外来医長　濵田　勇人

医師数　常勤　18名
　　非常勤　26名

●診療科の特徴

口腔顎顔面領域は「食べる」「話す」「豊かな表情を作る」など、生命活動にとって必要不可欠な機能を果たしています。また、「見た目の美しさ」も考慮しなければなりません。当科では顎顔面領域のあらゆる疾患を対象に、専門医療チームが先端医療を提供しております。

●診療体制と診療対象疾患

顎変形症外来

顎変形症は、上下顎骨の相対的または絶対的な不調和により、下顎前突や上顎前突あるいは開咬のほかに、時に顎関節症を併発し顎顔面の機能的・整容的な障害を引き起こす疾患です。治療には口腔外科、矯正歯科、補綴歯科を中心とした集学的治療が要求されます。一般的には術前矯正治療後に、下顎枝矢状分割術やLe Fort I型骨骨切り術などの顎矯正手術が行われます。

矯正歯科外来・口唇口蓋裂外来

歯列不正に起因する不正咬合に対して専門医による歯列矯正治療を行っています。また、口唇口蓋裂などの先天異常に対しては、ホッツ型口蓋床による顎発育誘導、口蓋形成術、顎裂部骨移植術、顎矯正手術など、口腔外科医と矯正医による年齢に応じた治療を行い、良好な歯列・咬合機能改善に取り組んでいます。

粘膜外来

口腔粘膜に生じたあらゆる疾患を対象に、薬物療法から外科的治療まで、病態に合わせた最新の治療を行っています。特に潜在的悪性疾患である扁平苔癬や白板症では、長期的に丁寧な経過観察を行うことによって、良好な治療成績を収めています。

顎顔面インプラントセンター

歯の欠損部に対するデンタルインプラント治療は、近年広く普及し、一般的な歯科医療の一つとなりつつあります。当センターの特長は医科大学病院の特性を生かし、複数疾患を持つ患者さんのインプラント治療の対応も可能な点です。全身状態や隣接組織に対し十分に配慮したうえ、最先端の研究成果に基づいた科学的で安全な治療を実施しています。

顎関節外来

近年、顎運動時に顎関節の異常や、ときに頭・頸・肩部の疼痛、目の疲労などの多様な臨床症状を訴える顎関節疾患が増加し、当科を受診しています。顎関節外来ではこれらの原因を精査し、咬合異常の原因を除去するとともにスプリント療法、関節腔内パンピング・マニピュレーション療法を行っています。

血液外来

血友病やフォンウィルブランド病、HIVなどの血液疾患を有した患者に対する観血的処置を、臨床検査科と連携して行っています。必要に応じて、血液製剤の投与や入院下での処置も行っています。

SAS（睡眠時無呼吸症候群）外来

いびきや閉塞性睡眠時無呼吸症に対し、上気道確保を目的としたマウスピース治療・管理を他科や地域の医療機関と連携して行います。閉塞性睡眠時無呼吸症が中等症や重症の場合は、持続的陽圧呼吸療法（CPAP）が第一選択になりますが、軽症～中等症の場合にはマウスピース治療を選択されています。また、睡眠時無呼吸症の原因が顎の形態にある場合は、根治的治療としての上下顎骨同時前方移動術（MMA）を行っています。

慢性疼痛外来

顎顔面領域には脳神経やその分枝が複雑に入り組んでいるため、疼痛の原因が特定できないことが少なくありません。このような症状の診断や治療には器質的・心理的アプローチが必要です。当科では一人の患者さんに複数の担当医が面接し、薬物療法、行動療法、スプリント療法などにより疼痛の緩和やQOLの向上に努めています。

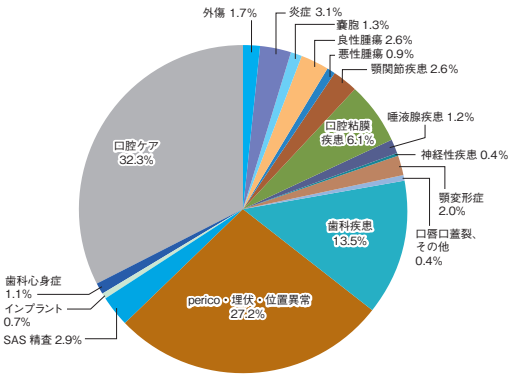
腫瘍外来

医科大学付属病院である歯科口腔外科の特性を活かし、関連各科と連携することで、全身疾患を有する症例でも、安心して標準治療を受けて頂くことができます。口腔がんに関しては全症例において、頭頸部キャンサーボードで頭頸部外科医、放射線治療医、放射線診断医と診断・治療方針に関して多角的に検討を行っており、症例に応じて分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など新規薬剤を用いた治療や、コンピューターシュミレーションを用いた最新の再建手術など、より高度な治療を提供しています。

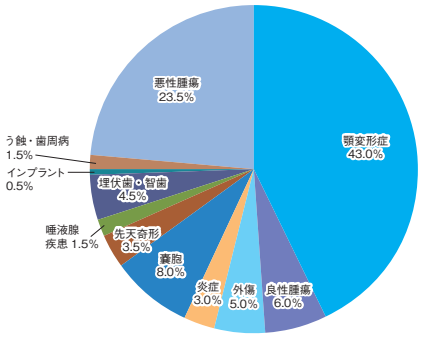
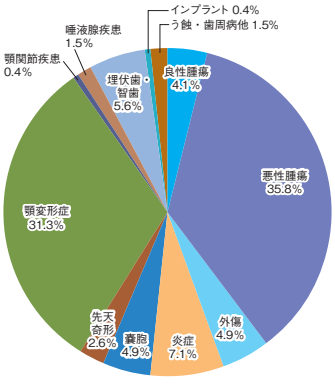
ONJ（顎骨壊死）外来

当科では最新のエビデンスに基づき2020年より、薬剤関連顎骨壊死に対し積極的な外科的治療を行っています。原疾患の治療主治医と連携をはかりながら、発症初期より、清掃性を考慮した壊死病変のトリミングや抜歯、根治治療としての顎骨切除など体系的な治療を行うことで、治療成績の向上ならび患者様のQOLの改善に努めています。個々の患者様の全身状態や希望に応じた治療を提案します。

1）初診



2）手術



3）入院